

公益財団法人ダイオーズ記念財団助成金給付事業 中間報告

山陽女子短期大学 新谷奈苗・永岡裕康

【研究題目】

高年齢労働者の活躍を阻害する要因の明確化とその対策

～高年齢労働者が明るく生き活きと活躍できる職場環境作りに向けて～

【研究の背景】

高年齢労働者の継続雇用は、労働現場にとって人手不足の解消につながるとともに、働く高年齢労働者の36.7%が「働けるうちはいつまでも働きたい」という就業意識を持っていること（令和元年内閣府）から、高い就業意識をもった労働者の採用が可能となっている。しかし高年齢労働者は健康管理や安全管理においてのリスクが高く、よりきめ細やかな支援が必要となる。それ以外にも、IT対応への再教育や今まで部下であった者が上司になることで組織内の人間関係の難しさも聞こえてくる。今後の就業環境を考えても、高年齢労働者の継続雇用は必要であり、高年齢労働者が職場内にいることでのデメリットをなくす対策をすすめ、組織の生産性向上につながるようにしていきたい。

【研究の目的】

高年齢労働者の継続雇用のメリットとデメリットを質問紙調査とインタビュー調査で明らかにし、明らかになった課題について総務・人事と対策を講じるための検討会を開催し、高年齢労働者継続雇用の基礎資料とすることを目的とする。

【研究の進捗状況】

- 1) 質問紙調査項目、インタビュー内容の吟味を実施。
- 2) 本学倫理委員会に申請書を提出し6月に承認された。
- 3) 調査対象企業・対象者の選定、および調整を実施。
- 4) 質問紙調査
 - 6月：1社53名実施済み
 - 8月：2社700名実施予定
 - 9月：2社300名実施予定
 - 計1,053名実施予定
- 5) インタビュー調査
 - 6月：2社2名実施済み（製造業・サービス業）

【これまでに明らかになったこと】

高年齢労働者と共に働く労働者からは、役職定年や延長雇用期間に入った高年齢労働者の態度に変化がなく、現役の時と同じような言動が見られることがあり、会議などで発言しづらいといった意見があった。また延長雇用期間に入ると、懸命に仕事に向かっている様子が見られなくなり、現役の時とは違う姿を見ることで今まで持っていたイメージが崩れてしまうことがあるとの発言もあった。

高年齢労働者側の考えについてはまだヒアリングを実施できていないが、定年を境に職場内での立場や報酬が変わり、その変化に自分自身も戸惑っている状況が予測される。

【今後の計画】

- 1) 質問紙調査結果の集計、分析
- 2) インタビュー調査結果の内容分析
- 3) 考察の実施
- 4) 協力企業への提案
- 5) 分析結果の発表

→ Joint Congress of ICOH-WOPS & APA-PFAW 2025 発表予定

Ho Chi Minh city, December 10-12, 2025, in Vietnam.

以上